



## 地域防災の要 防火防災意識を新たに



▲消防署員の説明を聞く参加者のみなさん

一方、消防団は、火災発生地点に向けてポンプ中継・放水訓練を行いました。

奥出雲町発足五周年を記念して、夏期総合特別訓練が六月二十日開催されました。早朝から三成と横田の市街地で避難訓練、その後、横田運動公園多目的広場で部隊訓練・操法訓練披露が行われました。

### 大震災を想定 住民参加で避難訓練

「奥出雲町を震源とする震度五強の地震発生、これにより三成・横田市街地で火災が発生した」という想定で避難訓練が行われました。七時に避難命令の告知放送がされ、三成・横田両地区約二百五十人の住民が、避難誘導員の指示で、避難場所の各

小学校校庭に避難しました。

参加者たちは、訓練であっても実際の火災発生を考え、真剣に取り組んでいました。

また、雲南消防本部の指導のもと、三成地区では起震車での地震体験、横田地区では消火器による消火体験が行われ、体験した人たちは、それぞれの防災意識を新たにしていきました。



▲実践さながらの放水訓練

普段の訓練ではあまりできないポンプ中継による放水訓練でしたが、それぞれ迅速かつ正確に操作し、素早く消火作業を行なっていました。

### 規律正しく迅速に 部隊訓練・操法訓練披露

避難訓練の後、横田運動公園多目的広場に場所を移し、部隊訓練・操法訓練披露等が、全団員出席のもと大勢の来賓を迎え行なわれました。開始にあたり、井上町長から「町民の生命、財産を守るため、一層の尽力をお願いしたい」とあいさつがありました。

続いて、佐藤均雲南消防本部消防長、木村昭憲雲南市消防団長、松田栄次飯南町消防団長らを点検者として、大隊ごとの通常点検、機械器具点検、部隊訓練がそれぞれ消防団らしい規律正しい動作で行なわれました。



▲規律正しい部隊訓練

その後、例年とは異なり、小型ポンプ及びポンプ車による一斉操法が行なわれ、各出場隊は日頃の訓練の成果を発揮し、機敏な動作で操法を披露しました。

誓いの言葉を述べる安部団長



最後に安部正教団長から「全団員のこの訓練に対する頑張りとやる気に対し、大きな感動を得た。今後も団長以下六百十五名が一丸となり、自らの地域は自らで守るといふ郷土愛護の精神のもと、地域社会に奉仕する団体として頑張っていくことを誓います」とあいさつされました。今回の特別訓練を機に、より一層地域と協働した消防団活動が行なわれることが期待されます。



## 短歌の奥深さに触れる 与謝野晶子短歌文学賞

与謝野鉄幹・晶子の山陰吟行八十周年、奥出雲町発足五周年を記念した、「第十六回与謝野晶子短歌文学賞」が七月三日、四日の両日、カルチャープラザ仁多で開催されました。

この文学賞は、「みだれ髪」をはじめ日本の文学史上に偉大な足跡を残した与謝野晶子を顕彰するもので、当日は短歌愛好家、晶子ファンなど全国各地から約二百人が集まりました。

今回の応募には、過去最多となる国内二万四百余りの作品が寄せられ、町内からも約三百作品の応募がありました。表彰式では、一般部門受賞者十一人、青春の短歌部門受賞者十人に表彰状が手渡され、会場からは大きな拍手が送られました。

また、奥出雲町内からは仁多中学校の藤原奈々さん、佐藤加奈子さんが特別表彰を受賞しました。三日に行なわれた、特別鼎談では、「古代歌謡から現代短歌まで」をテーマに、文学界で活躍する篠弘さん、永田和宏さん、馬場あき子さんの三名が、最古の和歌とされる「八雲たつ出雲八重垣妻籠みに八重垣作るその八重垣を」などをあげて、短歌の魅力を紹介しました。

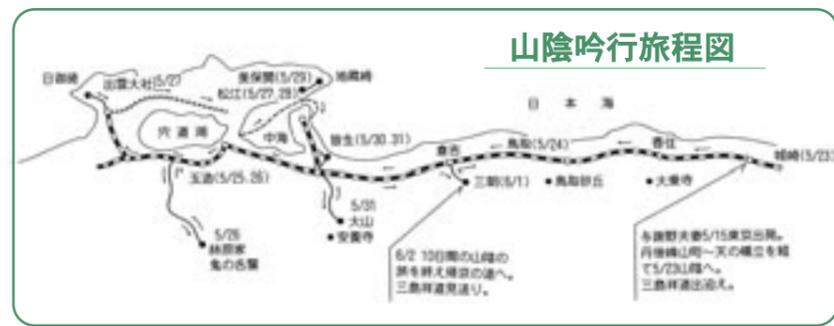
永田さんは「死ぬ日まで歌を詠み続けている人を歌人と言いたい、継続することが大事」とこの鼎談を結びました。

### 与謝野晶子・鉄幹 奥出雲吟行の足跡を辿って

溪(たに)はし鬼舌(おにした)ふるひ去(さ)りたれば河鹿(かじか)いざなふ月射(しづ)せよとも  
溪(たに)の岩(いわた)百畳(ひゃくじょう)をさへ敷(し)きつべし鬼(おに)の童子(どうじ)の現(あ)れて舞(ま)へ  
晶子(あきこ) 鉄幹(てつかん)



昭和五年五月、与謝野晶子は夫・鉄幹とともに、京都から山陰を巡る吟行の旅に赴き、門弟の三原祥道氏の道案内で奥出雲を訪れました。夫妻は、たたら製鉄で栄えた糸原邸や「鬼の舌震」などを訪れ、いくつもの歌を残しています。



### 文部科学大臣賞受賞作品

【一般部門】嶋 寺洋子(滋賀)  
猫の名をつけられわれは トムばあちゃん  
トムちいちゃんと 仲良く暮らす  
【青春の短歌】宮 下自由(群馬)  
障害のほくに肩貸す友達に ありがとよ言えば  
オスと答える